

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL
教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第108号 2015. 6.6 (土)発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET

教育実習始まる

Do your best!!

「教育は人なり！」

短期大学部教授 明石 一朗

新緑が眩しい季節となりました。若葉のように教員をめざしているみなさんも輝いています。いよいよ、教育実習がスタートしました。言うまでもなく、教育実習は、学校現場に赴いて実際の教育活動に従事し、「教員の一員」として教科指導、児童・生徒指導、進路指導等を経験して実践的な教員力を養うことを目的としています。教育実習は、各学校のご好意とこれまで関西外大の諸先輩が築き上げてきた信頼と実績の上に成り立っています。ですから、まずは、全力を出し切る。悔いを残さない。自分を厳しく律して、他に甘えない。子どもたちの前に立つ重みを感じて、日々、精進することを求めます。

実習に当たっては、特に次の3つの「管理」を心がけてください。

1. 「安全管理」

何をおいても子どもたちの生命の安全に気をつけてください。怪我や事故の無いことはもちろん、毎日の教育指導が安全・安心な環境の下で行われるように配慮しましょう。

2. 「情報管理」

学校には様々な情報が集積されています。受け持つ児童・生徒の成績などの個人情報や会議等で出された学校情報等の紛失や流出は厳禁です。

3. 「健康管理」

約3～4週間、自分自身の健康に留意して「元気」に毎日過ごしましょう。子どもたちはパワーに溢れています。笑顔で明るく元気な先生が一番好きです。体調管理を怠ることなく実習をやり遂げましょう。

最後に、「教育は人なり」という言葉があります。教育を左右するのは先生の存在です。次代を担う子どもたちの全人格に有形無形の影響を与え、その人生をも左右する職業であることを自覚し使命感と情熱を持って自己研鑽に励んでください。素敵な報告談を心待ちにしています。

「身の回りに配慮できる教師を目ざす」

…関西外大生の姿や行動に拍手

英語キャリア学部教授 岡澤潤次

先日、火曜日の「夜スペ」の終了時、いつも必ず板書をきれいに消してくれる横山賢人さんから素晴らしいコメントをいただきました。「私は、2回生の時に会った AさんとBさんに人間的魅力を感じました。二人の先輩が、ある受講した講義の終了後、率先して板書を消し、プロジェクターの片付けのお手伝いの様子を見て、感動し、私もこのような先輩になりたいと思いました」と。さらに、「私も先輩方の積極的な姿や振る舞いに学び、身の回りの人に配慮し、感謝の気持ちを表すことを心がけ、必ず、後片付け等のお手伝いを進んで実践しています」と続けて語っていました。

教員採用試験対策セミナー（春合宿）終了報告！！

5月16日（土）、17日（日）で教員採用試験対策セミナー（春合宿）が行われました。学研都市キャンパスにおいて、43名の3・4年生が参加し、卒業生現職教員との討論やテストマラソン・面接対策などを、10名の卒業生現職教員の皆さんの協力により、今年度も非常に内容の濃いものとなりました。

合宿参加者の声を紹介します。

田丸 遥さん

(外国語学部英米語学科 4年生)

私は今回で3度目の合宿参加となります。私は3回生の冬にこの合宿で共に頑張る仲間を見つけゼミを作りました。合宿は仲間を見つけられる最高のチャンスです。あの時に会ったゼミの仲間と共に勉強する時間が、今の私の大きな励みになっています。

今回の合宿は4回生にとっては最後の合宿だったので、皆の気合いが違いました。その分、焦りと不安がどこに行ってもついてきます。そんな中、初めに先輩方・現職の先生方のお話を聞いた際に、ある先生が「大変」の意味を教えてくださいました。今は勉強や実習で大変だと思うけれど、乗り越えたら大きく変わる事が出来るとおっしゃっていました。仲間と共に乗り越えたいと心から思えました。初日は他にも個別でお話しをする時間があり、色々質問をする事が出来て、有意義な時間を過ごしました。

2日目は過去問を解き、面接練習をしました。面接練習では周りの人に圧倒され、悔しい気持ちと頑張りたいという気持ちが芽生えました。普段一緒に勉強する機会が少ない、学研都市キャンパスの学生と学ぶ事もいい刺激になります。この合宿では、多くの方の協力のおかげで「焦りと不安」を「高いモチベーション」に変える事が出来ました。いつも合宿を開いて下さる先生・教職教育センターの方・先輩方・現職の先生に感謝しつつ、全力で残りの2ヶ月走りきりたいと思います。

堀 あかねさん

(外国語学部英米語学科 4年生)

私は教員採用試験対策合宿に参加する前は、とにかく採用試験に合格するために筆記試験の勉強を必死であればきっとよい結果に結びつくと考えていました。そんな自分の甘さに、2日間で気づかされました。具体的に、私が一番強く感じたことは、自分一人で勉強していると、自分自身を客観的に見つめることは出来ず、周りの人に自分がどのように映っているか冷静に考えられないということです。合宿中に、多くの現役で教員として活躍しておられる卒業生の方々と直接話すことや、関西外国語大学で教職を教えて下さっている先生方のご指導のお陰で、教員採用試験に合格するだけを決死で目指していた自分に気づきました。先生方は日々生徒と向き合い、生徒のために何が出来るかを常に考えておられ、私はとても大切なことを見落としていたと気づきました。よってこの機会を通して、何のために教職を目指していたのか、自分自身の原点を見つめ直すことが出来ました。そして教職への意欲がますます高まり、面接練習などで今の自分が伸ばすところやこれから努力するところが明らかになり、勉強をするモチベーションが高くなりました。

この素晴らしい機会を与えていただいたことに感謝するだけでなく、この合宿で学んだ事を生かして、教員採用試験に向けて、ともに学んだ仲間達と切磋琢磨しながら、よい結果を残せるように更に努力したいと考えています。

今宿 由紀子さん

(外国語学部英米語学科 4年生)

はじめまして。学部4年英米語学科の今宿（いましく）と申します。

まず初めに、私がなぜ合宿に参加しようと思ったかをお話したいと思います。昨年9月から12月にかけて、私はカナダで留学をしてまいりました。その後1月から、教員採用試験を受ける予定の留学帰国生組でゼミを組み、共に学び合っていました。積極的に情報交換をすることを通して、よりリッチな「ネタ」作りができ、モチベーションを高めることができました。し

かし、教育実習に向けての情報であったり、教員採用試験に向けての勉強法であったり、実際現場で働いてみて気づいたこと等の情報を入手すると、この合宿を利用するほかないと思ひ、参加を決意いたしました。

次に、合宿に参加するメリットをお話したいと思ひます。一つ目は、新たな仲間との出会いです。中宮キャンパスの教職履修生だけでなく、学研都市キャンパスの教職履修生も参加するので、新たなネットワークができます。また、私たちのために合宿に来てくださった先輩方とも繋がるができます。二つ目は、先程も申しましたが、合宿では様々な情報を入手することが可能な点です。自分が気になっていることなどを予め考えておき積極的に質問すると、より充実したものになると思ひます。「夜スペ」「サイスペ」の情報を交換するのもよいでしょう。三つ目は、モチベーションを高めることができる点です。この合宿は意識の高い人ばかりが参加するので、とても良い刺激になると思ひます。以上三点より、この合宿は「出会い」「学び合い」「高め合い」を含んでいるといえます。この絶好のチャンスを逃さないよう、これから参加を希望する方は、十分に事前準備をしてから望んでほしいと思ひます。

最後に、私のこれからの意気込みをお話したいと思ひます。合宿に参加したことで、新たに自分の強みやこれからすべきことが見えてきたので、今は自分の「ネタ帳」を整理し、それをもとに教育実習や教員採用試験に向けて勉強しています。正直、不安な気持ちになることもありますが、私一人だけじゃない、「戦友」がいるんだと思うと気が楽になります。また、ボランティア等で出会った子どもたちの笑顔を思い出すと、元気がもらえます。そうして自分を律しつつ、当たり前前に感謝し、学び続けたいと思ひます。最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

岡田 瑞季さん

(国際言語学部国際言語コミュニケーション学科 4年生)

今回の教職合宿はとてもモチベーションが上がった合宿でした。また、『絶対合格して教師になる』と強く思い直すことができました。

合宿では先輩教師の方のお話、グループ交流会、筆記試験・模擬面接を2日間に分けて行います。3回生の時はただただそのペースについていくのに必死でした。しかし、採用試験をあと1か月後に控えた4回生として参加すると、合宿という学習機会の感じ方、先輩教師の方のお話を聞くときの耳の傾け方の違いがありました。

筆記試験・面接対策では自分の現状能力を知ることができる絶好のチャンスです。私は、筆記試験はほぼ満点、模擬面接では面接官の先生からほめていただきました。日々、空き時間を使って友達と勉強をし、サイスペに参加してきた努力の成果が出たと思ひました。日々の努力の成果を見ることができ、さらに better な状況に自分の能力をあげようという意欲も湧きました。

また、先輩教師の方のお話は魅力あるお話ばかりでした。一番心に残ったお話は突然暴言を言い続けた生徒が、先生の粘り強い指導により素直に謝り、一切言わなくなったことです。今の私

たちには無い教師力を感じました。今、この教師力を身に付けようとしても実際に現場に立ってない私たちには難しいです。だったら、今すべきことは自分の教師像を磨き上げることです。自分がどんな教師になりたいかを想像し、そのためにはどんな工夫をして生活していかなければならないのかを考えていくべきだと思いました。

高岡 尚真さん

(国際言語学部国際言語コミュニケーション学科 4年生)

こんにちは、国際言語学部4回生の高岡 尚真と申します。

今回私は、教員採用試験に向けた対策合宿に参加しました。その時の感想、またその後の自分の心境の変化などについて述べさせていただきます。

合宿に参加するきっかけは友達から声をかけてもらったことでした。募集が始まるとすぐに応募し、自分の中のモチベーションを高めていきました。

当日には、朝から学研都市キャンパスで教員採用試験合格を目指す仲間と一緒に勉強していました。そして、いざ合宿が始まると周りの人たちの雰囲気もガラリと変わったように思いました。最初に、この大学で教員採用試験合格を勝ちとった先輩たちのお話を聞かせてもらいました。どの話も、実際の現場での苦労やその楽しさを実感できるものでした。どの先生方にも共通して感じたことは、子どもたちに対する情熱を持っているということでした。やはりこれがなければ教師は務まらないと痛感しました。

二日目は実際の教員採用試験の問題や面接練習を行いました。みんなが必死になって問題に挑んでいる姿を見て自分も負けていけないと思いました。面接練習も自分が全く知らない人たちとの集団面接だったので、新鮮であり本番さながらの雰囲気で臨めたのではないかと思います。

今回の合宿では自分の課題が見えてきたように思います。それは自分の英語力であったり、教職教養であったり様々です。そしてこの自分の課題を残りの日数でより良いものにしていきたいという風を感じました。このモチベーションのまま、仲間たちと一緒に最後まで走りきりたいです。

最後にこの合宿の運営に携わってくださった各先生方、大学のスタッフの方々、そして自分たち後輩のために有意義な時間を提供してくださった先輩方への感謝を述べて、私の感想と致します。ありがとうございました。

二宮 瑞葵さん

(国際言語学部国際言語コミュニケーション学科 4年生)

まず、いつもこのような機会を与えてくださる先生方と先輩方に感謝いたします。本当にあり

がありがとうございました。私はこの合宿は仲間とともにモチベーションを上げるための『気づき合宿』だと思いました。私は合宿に参加したのは二回目でした。初めて合宿に参加した当初は勉強を始めたばかりだったので問題を解いても丸が全くつかず厳しいお言葉もいただき涙を流すほど悔しかったのを覚えています。しかし私はこの時の合宿で自分に足りていないところやこれからどういう風に勉強すればいいのか気づくことができその気づきから自分のモチベーションが上がり、『絶対に教師になってやる』という熱い思いに変わりました。早くに参加したことでたくさんの方々から刺激をいただけたことが常に励みになっています。

そして今回の合宿では、たくさんの方に出会い素晴らしい先輩たちの励ましでさらに教師になりたいという気持ちになりました。中でも私が今回感銘を受けたのは実際教師として勤めていらっしゃる先輩たちのお話です。先輩たちから聞く生徒の話や教師生活について先生たちの熱い気持ちを聞くたびに感動して本当に教師っていいなあと思うことができました。そしてどの先生も自分らしさがあると感じました。私は自分らしく自分を偽らずに素直に勉強し面接練習をすることが大切だと気づくことができました。

そして今回の合宿では自分に自信を持つことができました。前の合宿で全く解けなかったテストで満点を何度もとることができたことです。そして仲間皆で勉強したところがたくさん出てみんなで喜んだことを覚えています。こうして自信を持てたことは私たちにとって大きな一歩となりました。

最後に私は次の合宿では必ず前に立って先輩たちのように後輩に『教師ってこんなに楽しいんやで！』のようなメッセージを伝える立場になれるように精一杯教員採用試験にむけて仲間とともに頑張ります。そしてこのような教職合宿をしてもらえる学生は数少ないと思います。きちんと先生方や先輩方に感謝の気持ちを忘れず今後もモチベーションを上げて仲間と頑張ります。ありがとうございました。

板倉 真結香さん

(国際言語学部国際言語コミュニケーション学科 4年生)

この合宿に参加して、数年前に私たちの立場におられた先輩方のお話を聞いていると、私も努力すれば教師になれる！先輩方のような教師になりたい！と思うことができ、教員採用試験に対するモチベーションがさらに上がりました。先輩方がお話しされる際の笑顔やポジティブな気持ちが印象的でした。教師は本当にやりがいのある仕事だということが伝わってきて、教師になりたいという思いがさらに強くなりました。

その中でも特に印象に残っているのは、卒業生である藤原先生の「大変な時は、自分自身が大きく変わる時だ」というお話です。大変な時は、どうしても気持ちが消極的になってしまいがちです。しかし、自分が大きく変わるチャンスだということによって、気持ちが前向きになります。現在は教員採用試験を前に大変な時ですが、この言葉を胸に、負けずに頑張っていこうと思うことができました。

また、面接練習では「なぜ教師を目指すのか。自分がどんな教師になりたいか。どんな授業をしたいか。どんな生徒を育てたいか」これらのことを軸として自分の思いを伝えることが大事だと、分かっていたつもりでした。しかし、教員採用試験に合格するという目標だけに必死で、自分がなぜ教師になりたいかという目的を見失いそうになっていた自分がいることに気がつきました。教員採用試験に合格した、その先の教師になった際にどうなりたいかを今一度、じっくり考えてみようと思います。

教員採用試験に対するモチベーションと教師になりたい理由。これらのことをもう一度じっくり考えるきっかけを与えてくれた今回の合宿に参加して本当に良かったです。

奈良県大和高田市立片塩中学校 西元 亮人先生

(国際言語学部国際言語コミュニケーション学科 平成 25 年 3 月卒業)

教職合宿に参加して

みなさん、こんにちは。私は奈良県大和高田市にある片塩中学校で勤務しております西元亮人（にしもと あきひと）と申します。5月16・17日に開かれた教職合宿に参加した率直な感想とこれからの教員採用試験に臨み、教壇に立つみなさんへのメッセージを本気で教員を志望されている学生に綴らせていただきます。

まず教職合宿に参加して感じたことは「みんなすごく成長してる」。これが最初に出てきた率直な気持ちです。ここまで3年間、関西外大での授業や学校ボランティア、日々の英語学習、「夜スペ」「サイスペ」に懸命に取り組んできていることが容易に想像できました。私自身、秋の教職合宿にも参加させていただきましたが、それとは比べものにならないほどの成長だと思えます。それが見られただけでも「教職合宿に参加してよかったな」と思っています。

もう1点感じたことは、「外大のネットワークの広さ・先生方のフットワークの軽さ」です。この教職合宿ではたくさんの先生方にご協力いただきました。1日だけでも「現役教職履修生のために」と合宿に駆けつけてくださる現役の先生方が多数いらっしゃいます。そして、教壇に立っている私自身も今回の教職合宿で現役の先生方の話を聞いて学ばせていただきました。改めてこの合宿がいかにありがたいことかを痛感しました。学生の皆さんはこれを「当たり前やん」と思わないでください。現場の先生方、外大の先生方もお忙しい中でこのような合宿を設けてくださっています。中には合宿中も教材研究を夜中までされている先生方もいらっしゃいます。そこまでしてでも足を運ぶのには、みなさんに「教師になってほしい」「後輩の想いに応えたい」と思っているからです。そして、教職合宿でつながりを持ってたことに感謝の気持ちを持ってほしいと思います。

さて、これから教員採用試験（以下、教採）に臨み教壇に立つみなさん。また、本気で教師になりたいと思っているみなさん。自分がこういう教師になりたいという「信念」はありますか。「夢」や「目標」が「自分を動かす原動力」になると私は考えています。まずはそこを自分なり

に突き詰めることや周りの仲間と「本気で語る」ことをしてみてください。自分で考えて、相手に伝えて初めて分かることがたくさんあります。たくさんの仲間と自分の考えを共有しましょう。そして、なぜそう思ったのかも伝えてみてください。面接練習以上に白熱すると思います。

また、「英語の教師になる」ということも忘れないでください。自分が日課にしている英語学習はありますか。私は学生時代のときはディクテーションを毎日欠かさず、教師になってからは英字新聞を購読し理解してから音読する、ということをしています。「生徒の力は教師の力量以上には伸びない」。生徒の可能性を広げるために、生徒に憧れを持たせるために、自分の力を磨き続けてください。

教採に臨むみなさん、これからが正念場です。私が持っているバドミントン部の3年生の生徒にもよくこう言っています。

「ええか、引退までの1か月間、ここで一生懸命取り組んだらびっくりするほど伸びるぞ。でもな、ここで手抜いたらびっくりするほど落ちるぞ。どっちにいくかは君ら次第やし、がんばる、がんばらんは君ら次第やで」（でも、勝ったら生徒ががんばったから。負けたら顧問の力量不足だと肚（はら）の中では思っています。）

実際、中・高時代の野球部での引退間際、大学での教採前にはそういう仲間たちをたくさんみてきました。本当にここからが頑張りどきです。志望理由・自己PRなどは前日まで悩んでしょう。ぜひ悩んでください。それでもわからない時は周りの先生方・仲間をどんどん頼ればいいと思います。ひとりで教採に臨んでいるではありません。みんなで乗り切ってください。

最後にみなさんに贈るメッセージは「教採受かってこい！」それだけです。来年4月にみなさんが教師として、そして同じ志を持つ同僚として共に働けることを楽しみにしています。

上田 知幸さん

（関西外国語大学大学院外国語学研究科博士前期課程英語学専攻2年）

先日、学研都市キャンパスで行われた教職合宿に参加させていただきました。私も2年前、教職合宿に参加し、そこで先生や先輩、仲間から多くの刺激を受けたことを今でも覚えています。今回の合宿で、みなさんの「絶対教師になる！！」という強い情熱が伝わってきました。

教員採用試験を前にしたみなさんに、ぜひ心に留めておいて欲しいと思うことを1つ述べたいと思います。

「言葉の力を信じ抜く」ということです。

教員採用試験では、英語教師として、言葉の教師として、まずは自分自身について言葉で表せられるようになって欲しいと思います。たとえば、「なぜ教師になるのですか」「これからの教師に求められる資質とは」などの質問に対して、言葉でしっかりと自分自身の考えを伝えることが大切です。体罰が起こるのも、「なんで言ったことが分かってもらえないんだろう」ということ

ろから起こっているのかもしれませんが。英語教師になるみなさんは、「言葉でかなりのところまで分かり合えるんだ」と信じてください。言葉の魅力やおもしろさなどを伝えられる教師は素敵ではないですか。教員採用試験では面接や論文などの試験がありますが、みなさんにはぜひ言葉の力を信じ、自分自身を表して欲しいと思います。

教員採用試験まで残り2ヶ月。みなさんは1人ではありません。後ろには素晴らしい先生方、横には切磋琢磨できる仲間がいます。みなさんで支え合いながら、教員採用試験合格を掴み取ってください。私自身ももっと学びを深めていかなければならないと痛感する日々です。みなさんに負けないように自己研鑽に励もうとよりいっそう思いました。

最後になりますが、みなさんが教員採用試験に集中できるのは、教職教育センターのみなさんや先生方のおかげです。藤原先生がおっしゃられていた「あたりまえ」ではなく「ありがとう」と常に感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張ってください。ありがとうございました。

教員養成特別講座参加者から

4月25日(土)より教員を志す学生を対象に特別講座を実施しています。教育現場や学校経営にかかわる方からの生の声を聴くことができる機会として、多くの学生が参加しています。参加した学生の本講座についての感想を紹介します。

島崎 健斗さん

(英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 2年生)

～榊田先生のお話を聞いて～

この度はこのような貴重な機会をいただきましたことに、改めて感謝いたします。現役の先生方からお話を聞くことで、自分にとってとてもいい刺激になりました。

さて、今回は学習指導要領と授業について、最初からとても印象深いことを学ぶことができました。プリントを拝見いたしますと、まず子どもを取り巻く社会状況について載っています。今、子どもの学力低下が問題になっていると思います(ただし、いつの年代と比較して、今の子どもたちは学力が低い、と言っているのかは定かではないですが)。それには社会状況、つまり環境が関係していることに改めて気づかされました。私自身、昔のことを深く理解しているわけではないのですが、確かにそれは変わってきていると思います。高度成長期からこれまで、日本に限らず、世界が発展し続けてきたのがその証拠です。そして、国際競争は激化、雇用環境は悪化し、格差が拡大・固定化しています。

今回、私は榊田先生に質問する機会をいただくことができました。その内容は、「親の、子に対する暴力・虐待は遺伝的であると思われがちですが、実際は貧困が原因であると思います。そのことについてどうお思いでしょうか。」というものです。その答えから、榊田先生のお考えが、

私とほぼ同じ意見をお持ちだとわかりました。

今、子どもの貧困率は上昇傾向にあります。その原因としては、先ほど申し上げた雇用環境の悪化で、親の低所得、さらには職に就くことさえできていない、という問題が日本で起こっています(もちろん、世界中でもストリートチルドレン等の問題は深刻極まりないです)。そして、ストレス等で子どもに手をだしてしまったり、金銭的な問題で子どもを学校に行かせられない、という問題が起きてしまっているのです。

この問題は、貧困が続く限り、負の連鎖となって次の世代の子どもたちにも少なからず影響します。その対応策として、具体的ではないのですが、やはり“教育”が必要なのでしょう。貧困をのり越えるために、働き、生きる力をつけなければならないのが“教育”だと思います。これは永遠に考え続けなければならない問題である、と梶田先生はおっしゃっていて、本当にその通りだと思いました。だから、学習指導要領に「生きる力」を育むという理念があるのだと思います。

次に、アクティブラーニングとは一体何なのか、この講義を受ける前までは深く理解していませんでした。アクティブラーニングとは、児童自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的・協働的に学習し、成果等を表現することのできる授業方法のことを指します。従来の授業形態は、確かにまとまった知識情報を伝達するには便利ですが、児童らはおそらく長時間集中できませんでしょうし、記憶にも残りにくく、応用もしにくい、などという欠点があったのではないのでしょうか。

今、世界は急速にグローバル化しています。そのなかで働き、活躍することのできる人材を育ていくのが教師の仕事だと思います。しかし、今、ほんの少し基礎学力などが低くても、大学に入れることが可能であることから、現状の学習形態を変えていかなければならない、という流れがあるのかもしれませんが、そして、子どもたち個々の学習を促進するような働きかけも必要なのです。

今回、梶田先生の講義の中でたくさん、隣の人と話し、考える機会がありました。そうして、自分で考えを持ち、それを人に伝え、また人の話を聞く。自分の意見と相手の意見とを交換し、比較し、課題の答えにふさわしいものを自分で導き出し、最後に理解したことをまとめる。当たり前のようで、これがとても大切で児童に効果的だと分かりました。本当は、貧困の問題に限らず、体罰や道徳授業について質問したいことがあったのですが、機会があれば、またよろしくお願いします。ありがとうございました。

山下 愛さん

(外国語学部英米語学科 科目等履修生)

今回の講義で、子どもを取り巻く厳しい社会状況や学習指導要領などについて学びました。その中で私が印象に残ったことは、二つあります。一つ目は、アクティブラーニングを小学校や中学校でもできることです。私は、大学では自分で課題を見つけ、解決して、そのことについて討論や発表する機会はよくありました。しかし、小学校や中学校の教科の時間にこのような活動することはほとんどありませんでした。そのため、大学に来て苦戦した一方で、根拠をもとに話

すことは、社会で必要な力だと感じました。これらを大学から始めるのではなく、小学校や中学校で取り入れることで、生徒の主体性を伸ばし、社会で生きるための力を身に着けることができます。また、アクティブラーニングで他者の意見を尊重し、違いを大切にすることによって、より良い学級づくりができます。子どもが社会で生きていく中でどのような力が必要なのか常に考えていきたいと思います。

二つ目は、貧困や暴力を乗り越えるためには、教育が大きな鍵となることです。虐待の原因は、過去に親から虐待を受けて育ち、どのように自分の子供にしつけをすればいいかわからない。また、経済面で困難な家庭では、精神面でも余裕がなく虐待をしてしまう。このように様々な要因があると思います。しかし、このような問題を解決するのは、教育だと思っています。教育には、どんな環境下にいる子どもたちも助けることができます。発展途上国では、親の収入が少なく、十分な教育を受けることができないため、良い仕事に就くことができず、子どもの世代も貧困になる負のサイクルがあると聞いたことがあります。しかし、子どもが教育を受けることができれば、この負のサイクルを抜け出すことができるそうです。日本でも、貧困や虐待などの子どもを取り巻く問題は多いです。しかし、教育によって私は、知識や技術だけでなく豊かに生きるための力をつけることができます。子どもの取り巻く環境や社会で子どもにとって本当に必要な力を考えると、教育に携わる教師としての仕事に対して、責任感とやる気に満ち溢れました。

先輩からのメッセージ

大阪府立八尾北高等学校 小谷延良先生

(外国語学部英米語学科 平成 18 年 3 月卒業)

～教師の進化論～

今回は教師として進化し続けるために不可欠な 3 つの要素について書かせていただきます。私が考える進化の方程式は「進化＝自己投資＋柔軟性＋環境」だと考えます。

1. 自己投資

自己投資とは「自分の能力にお金と時間を費やすこと」を意味します。これにより自分の能力が高まるだけでなく、自信が付き、視野が広がることで、自他共に利益をもたらします。自分が学び、知識や能力が高まることで質の高い授業を児童・生徒に提供できる。これにより児童・生徒の理解度や満足度が高くなり学力が高まり、その結果希望する進路を実現できる。それにより保護者に喜びがもたらされる。また、そのような教師の姿を見て同僚も感化され、意識が高くなる。このように自分の能力に投資し自分が成長できることで、あらゆる相乗効果が期待できるの

です。ただし、自分の時間を全て自己投資に費やすようにと言っているわけではありません。大切なことは「娯楽よりも自己投資に多くを費やすこと」が重要だということです。例えば土日が休みであれば、土曜日は娯楽、日曜日は自己投資というようにしっかりとバランスを取りながら過ごすようにすることが理想です。どんな分野においてもそうですが、高いパフォーマンスや結果を残されている方は自己投資を怠らず、これがルーティンになっています。ですので、学生のうちから自己投資の習慣を体に染み込ませ、教壇に立ってからも常に自己投資を行うように心掛けてください。

2. 柔軟性

「あらゆる変化に対して自分自身を適応させること、対応できること」を言います。これは一つの考えに固執しすぎず、様々な意見やアイデアに耳を傾けその場に応じて柔軟に対応することが重要だということです。人は何か成功するとそれに至ったプロセスや手法が完璧なものであると思いがちです。もちろんそれらは大いに評価されるべきですが、それだけにとらわれすぎて、他人からの意見をシャットアウトしてしまうとそれ以上の進化は望めません。どんな分野でも伝統や一つの考えに固執しすぎることが原因で進化できず、その結淘汰されていくケースが多々あります。年齢が下であったり、学歴が自分よりも低かったりという理由で全てはねつけるのは大きな間違いです。児童や生徒であっても素晴らしい考え方やアイデアを持っている生徒はたくさんいますし、彼らによって成長させられることも多々あります。ただし勘違いしてはいけないのは、全てのことを素直に受け入れることが良いというわけではありません。しっかりと適切かつ正確な情報を精査しながら取り入れることです。それらを精査する能力は1の自己投資をどれだけ普段の生活で行い一定の能力や見識を持っていることが鍵になります。私の好きな言葉に「変わらないために変わり続ける」という格言があります。重要なことは必要に応じて無駄なプライドや、昔の成功体験は捨て、新しいことを吸収しようという姿勢で常に人と接することで大きな成長につながります。ただし自分の中の確固とした「教育理念」は曲げないように心掛けてください。

3. 環境

ここでの環境とは「環境を変えること」を意味します。快適で不自由の少ない平和な環境にいると人は危機感を感じず進化を意識しないことが多くなり、進化の度合いが低くなってしまふ恐れがあります。例えば働き始めて数年経って職場にも慣れ、環境に適応してきた時こそ新たな環境を模索すべきです。「慣れ」と「安定」は人の成長を阻害する要素となりえます。そのように感じた時こそ新たな環境に身を置き、さらなる進化を遂げるときなのです。また、環境に関する重要な点として、新たな人との「出会い」が挙げられます。私は人の人生は「どんな人に出会ったか」で決まると考えています。仲の良い友人や同僚と一緒にいると話も合い、共感できることも多いので非常に心地よく感じます。ただし、常にそのような人たちと一緒にいると新しい考えや刺激を得る機会は少なくなります。ではいかにして環境を変えるのかというと、様々な場所に足を運ぶことです。研修会やセミナー、ワークショップなど人と出会う場所は無数にあります。そのような場所に来られる方のほとんどは目的意識や志が高い方ですので、新たな刺激や学びを

得たり、輪を広げることができます。また時には業種の枠を飛び越えて、ビジネスパーソンが参加される勉強会などに足を運ぶことも大切です。教師の世界だけに身を置いていると視野が狭くなるので、他業種の方と交わることで新しい角度から物事を考えることができます。私も経営術、話し方、記憶術などあらゆるセミナーに参加して他業種の方と交流してきましたが、素晴らしいビジョンや考えを持っておられる方とも出会うことができました。ですので、不自由の少ない快適な環境に常に身を置くのではなく、出会いと成長を意識して環境を変えるように努めてください。

シリーズ⑧「心の窓を少し開いて！」

【学級のルールづくり】

すべての物事は、形を整え、まとめることによって意味を持つ。

「仏作って魂入らず」では困るが、将棋や囲碁、スポーツがそうであるように、教育においても、中身を充実発展させるために定石となる「基本の型」を確立することが大切である。

子どもの毎日の暮らしでは、睡眠と食事と排便のリズムを整えること。学習では、チャイムで行動し、私語を慎み、予習と復讐を習慣化することが肝心だ。学校生活全般では、挨拶・清掃・時間厳守の徹底が「活力ある学校づくり」の根本になる。これらの型が乱れてくると学校は「荒れる」。

ところで、新学期初めの学級経営は、個々の子どもが力を合わせ楽しく学校生活を過ごすために、たくさんの決まりごとと手順を整えることから始まる。まず、担任は学級の名簿を整えてから、以下のようなことを子どもたちと話し合ってルール化する。

- 学級目標
- 座席表
- 日直や給食や掃除の当番
- 学習や遊びの係り
- 授業規律
- ノートなどの学習具
- 体操服や上靴の使用
- みんな遊び
- 雨の日の過ごし方
- 朝の会、終わりの会の持ち方
- 学習掲示
- 持ち物の置き場所
- 置き傘の場所
- 宿題チェック
- 連絡ノートの書き方・・・。

読み・書き・計算・運動などを通じての学びは、心身の佇まいを整えなければ本当に身に着かないことばかりである。言いかえれば、整えるとは、初めにきちんと「躰ける」こと。字のごとく「身を美しくする」ことが学びの第一歩である。

編集後記——教職教育センターより——

梅雨の季節となりました。梅雨に入ることを入梅「にゅうばい」と呼びます。その日から約30日間が梅雨です。梅の実が熟する頃に雨季に入ることから入梅といわれるようになったとか、この頃は湿度が高く黴〔かび〕が生えやすいため「黴雨〔ばいう〕」が転じて梅雨になったともいわれています。

いずれにしても、家で過ごすことが多くなりそうです。気が滅入らないようポジティブにとらえ、この時期だからこそできることを探したいものです。